

# 変わる金融 のネダン

みずほフィナンシャルグループ（FG）は、グループ内で扱う同じ指数に連動するインデックス型投資信託の手数料を統一する。最低水準の0.50%にそろえる。投信業界では実質的に同じような運用をしているも手数料にばらつきがあることが常態化しており、「一物多価」を解消する機運が高まりそうだ。

グループ内のみずほ証券やみずほ銀行で販売するインデックス投信について、保有している人から一定比率でとる信託報酬を最低水準にそろえるめどをつけた。インデックス型は日経平均株価や

## みずほ、「一物多価」転換

### 同種の投信、グループで手数料統一

東証株価指数（TOPIX）0.50%から1.55%まで（X）などに沿った運用を。最低の0%を目指す投信のこと。グループ横断での対応はメガバンクグループで初めてとなる。

みずほグループでは、みずほ系の運用会社アセットマネジメントOneが提供するファンドなど計7本の日経平均連動型を扱っており、手数料は「同一ベンチマ

銘柄名	信託報酬	
	統一前	統一後
インデックスミリオン	1.55%	0.50
太陽ミリオン	1.50	
インデックスポートフォリオ	1.50	
インデックスマネジメントファンド225	0.50	
MHAM株式インデックスファンド225	0.55	

(注) みずほが対面販売で扱う日経平均連動の主なファンド

## 「顧客本位」業界に広がるか

「一物多価」の解消は容易ではない。手数料の引き下げ圧力が強まるなか、貴重な収入源を削ることになるためだ。古くからある投信は積み立てや運用を続けている人がいる限り、廃止・統合するハードルも高い。みずほは、1980年代に登場した企業の従業員が給与天引きで積み立てる「ミリオン」と呼ぶ投信だ。アセマネOneの「インデックスミリオン」はみずほ証券で取り扱っているが、7月に信託報酬を従来の1.55%から0.50%と3分の1に引き下げた。

「一物多価」の解消は容易ではない。手数料の引き下げ圧力が強まるなか、貴重な収入源を削ることになるためだ。古くからある投信は積み立てや運用を続けている人がいる限り、廃止・統合するハードルも高い。みずほは、1980年代に登場した企業の従業員が給与天引きで積み立てる「ミリオン」と呼ぶ投信だ。アセマネOneの「インデックスミリオン」はみずほ証券で取り扱っているが、7月に信託報酬を従来の1.55%から0.50%と3分の1に引き下げた。

(五艘志織)